

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）課題評価委員会

とりまとめ：高橋一孝

1 評価委員

- 委員長 岩田智也 学識経験者
山梨大学工学部循環システム工学科 准教授
- 委員 羽田金祝 生産者（漁業）
山梨県漁業協同組合連合会 副会長理事
- 委員 津野正康 生産者（養殖）
山梨県養殖漁業協同組合 代表理事組合長

2 評価委員会

(1) 第1回 平成24年8月28日（火） 水産技術センター本所

①事前評価課題「カワウ対策に関する研究」 研究員 芦澤晃彦

- | | | |
|-----------------|----|---|
| 課題設定の必要性 | 5点 | カワウ被害は県内漁業において深刻であり、課題の社会的ニーズは高い。 |
| 課題の新規性・独創性 | 5点 | 新たな擬卵づくりは他県の水産関係者にも利用可能なものであり、課題の新規性は高い。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 5点 | 研究目的・内容ともに整合しており、課題は妥当である。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 4点 | 擬卵による繁殖抑制は高所での危険な作業を伴うため、直接的な駆除など他の手法も検討して頂きたい。 |
| 成果の期待度 | 5点 | 他県と連携した広域的なカワウの抑制・管理に期待する。 |
| 総合評価 | 5点 | 漁業被害を食い止めるため、さらなる研究の進展に期待したい。 |

《センターとしての対応》

○長期的な視点に立ったモニタリング調査の継続と併行しながら、被害防除対策技術の改良を通して漁業被害の軽減に努めていきたい。

(2) 第2回 平成25年2月4日（月） 水産技術センター本所

①事後評価課題「低魚粉飼料開発試験」 主任研究員 名倉 盾

- | | | |
|-----------------|----|--|
| 研究目標の達成度 | 4点 | 研究目標は概ね達成されている。一部、実施途中の測定項目が残されており、早急に完了させて頂きたい。 |
| 成果の有用性（普及性、波及性） | 4点 | 有用性は高い。河川水を使った飼育実験にて効果を検証すると波及性も高まるだろう。 |
| 研究の発展性 | 4点 | トウモロコシ以外の原料を用いた試験についても、併せて実施して頂きたい。 |
| 研究課題選定の妥当性 | 4点 | 魚粉価格が高騰しており、本研究は喫緊の課題である。 |
| 総合評価 | 4点 | 国際情勢や為替に左右されない飼料の開発や試験に取り組んで |

頂きたい。また、様々な飼育条件（河川水、湧水など）を考慮した飼料の効果も検討して頂きたい。

《センターとしての対応》

○残された課題については、引き続き全国養鱒技術協議会養殖技術部会の飼料連絡試験に参加し、取り組んでいきたい。

○また、(独法)水産総合研究センターと連携を図りながら、超低魚粉耐性ニジマスの選抜育種についても検討していきたい。

②事後評価課題 「カワウの食性調査に基づく被害対策の効果検証」 研究員 芦澤晃彦

研究目標の達成度	5点	カワウ被害対策の高い費用対効果を明らかにしており、研究の達成度は高い。
成果の有用性（普及性、波及性）	5点	先進的な取り組みは大いに評価でき、成果の有用性は高い。
研究の発展性	4点	アユ以外の魚種を増やすことによるカワウ被害の軽減については、今後も検討が必要である。
研究課題選定の妥当性	5点	カワウの食害による漁業被害は大きく、研究課題は妥当である。
総合評価	5点	周辺他県との連携を密にして、更なる被害対策の進展につなげて頂きたい。

《センターとしての対応》

○カワウ被害軽減のため、研究成果は所外発表会等を通じて漁協に普及指導していく。平成25年度からは繁殖阻害の作業効率を改善するための研究を開始する。